日刊 産業新聞
Japan Metal Bulletin
2012年(平成24年)
5月10日(木)
第18003号
Since 1936

産業新聞社・アジア総局　上海支局開設記念特集

日中協力深化 新たなステージへ

日中両国は9月に国交正常化40周年を迎える。これまでも互いの発展に向け、より緊密な関係を築く取り組みを官民さまざまに進めてきた。鉄鋼業では1970年代から80年代にかけて上海宝山製鉄所（現・宝鋼集団）の建設に新日本製鉄と旧川崎製鉄が支援。92年からの改革・開放路線で開いた中国市場に日本の製造業が次々と進出し、鉄鋼や非鉄業も多様に事業を展開する。なお続く経済成長とともに高品質の素材と環境対応のニーズが増しており、両国の鉄鋼、非鉄業のさらなる協力の深化が求められようとしている。

君津から宝山 技術支援開花

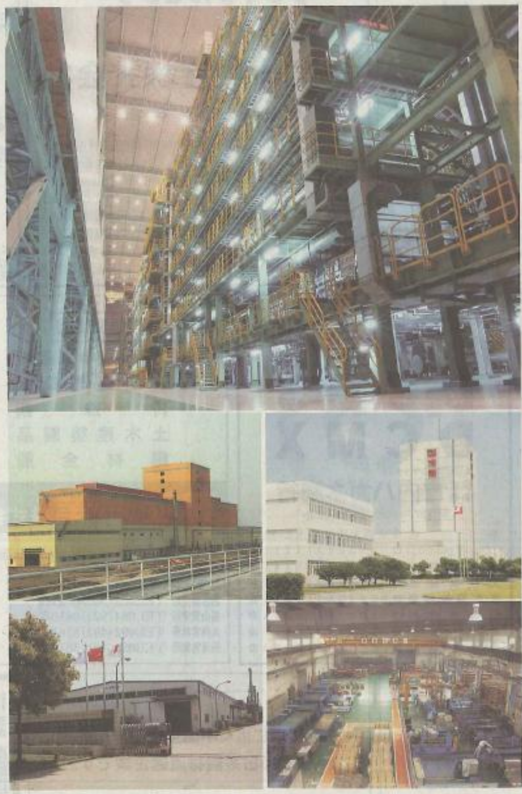
78年10月。初来日した故・鄧小平副首相は、新日鉄の君津製鉄所を訪れる。高炉や熱延工場を周り、最先端の鉄鋼製造技術を目の当たりにした鄧氏は、母国での大型近代化製鉄所の必要性を確信。日中合作による中国最大の国家プロジェクトにまい進する。

当時、中国の技術団の通訳を務めた、ある中国関係者は「中国側は技術習得に非常に熱心で、日本側も一生懸命に応えてくれた」と君津の高炉制御室でのやり取りを懐かしむ。

宝山製鉄所は生産量と技術水準を上げ、国営鉄鋼最大手の宝鋼の母体に。自動車用鋼板で国内50%のシェアを持ち、国内で圧倒的な収益力を誇る世界粗鋼3位の一大鉄鋼企業へと成長した。

00年以降の2桁台の経済成長期に大手から中小に至るまで鉄鋼各社が能力を拡張。粗鋼生産量は00年の1億トン台から06年に4億トンを超え、11年には6億8300万トンに膨らみ、世界粗鋼の半分近くを占めるまでに拡大した。

鉄鋼需要をけん引する自動車生産は、11年に1842万台と10年余りで9倍に成長。日本の大手自動車メーカーが現地生産に乗り出し、国内生産の約4分の1を占有するが、世界の自動車で最も品質要求の厳しい日系自動車への高級鋼の供給を担うのは、今も日本の鉄鋼メーカーだ。



①宝鋼新日鉄自動車鋼板の連続焼鈍設備②広州JFE鋼板③寧波宝新不銹鋼④JFE金属容器・上海⑤蘇州神商金属の工場内部

需要家に対応 現地展開進む

販売競争に勝ち抜くため、素材の現地調達化を進める日系需要家のニーズに対応し、日本の鉄鋼メーカーによる中国展開がこの10年間に急速に進んだ。

JFEスチールは、広州鋼鉄企業集団と合弁で溶融亜鉛めっき鋼板メーカーの広州JFE鋼板（GJSS）を03年に設立。新日鉄は、宝鋼と合弁で溶融亜鉛めっき鋼板メーカー、宝鋼新日鉄自動車鋼板（BNA）を04年に設立し、宝鋼とは日新製鋼もステンレス冷延メーカーの寧波宝新不銹鋼を合弁で運営。神戸製鋼所は鞍山鋼鉄と自動車用ハイテンの合弁工場建設に11年に合意した。

鋼管や棒鋼線材でも自動車対応を強化する。住友金属工業は鍛造クランクシャフトやメカニカル鋼管の現地工場を持ち、神鋼は杉田製線など線材加工メーカーと共同でCH用鋼線やばね用鋼線の製造拠点を華東、華南地区に展開。新日鉄系の東京製綱がタイヤ用スチールコード、鈴木金属工業が弁ばね用鋼線の現地工場を増強する。

自動車向け以外でもブリキでは、新日鉄が華南の広州太平洋馬口鉄に加え、内陸部の高品質市場を狙い、武漢鋼鉄と合弁工場の建設に着工。JFEは海南海宇錫板工業と福建中日達金属の2工場体制を敷く。住友金属は油井管を製造。JFEコンテイナーは11年10月に中国第3工場を建設し、なお拡張を計画する。

需要家への現地サービスを充実するのは、商社も同様。コイルセンターを各地に置き、加工や配送などきめ細かに対応。建設機械向けの厚板加工やエネルギー用鋼管加工など幅広く展開する。専業では丸一鋼管が鋼管、淀川製鋼所がカラー鋼板、羽田パイプ製造所が造船向けなどの冷間引抜鋼管とそれぞれ現地供給を強化している。

非鉄業でも、JX日鉱日石金属が上海、蘇州、無錫に拠点を持ち、電子材料や伸銅の加工を拡大。出資する常州金源は銅電線の前段階の銅荒引き線を製造し、好調だ。

環境保護で互恵関係

「中国と日本は持続可能な社会の構築に対し、ともに責任を持つ。相互協力を通して環境と経済の両立、世界的視野での持続可能な経済発展に寄与できると確信している」

05年に初めて開かれた、日中鉄鋼業環境保全・省エネルギー先進技術交流会で、当時の三村明夫・日本鉄鋼連盟会長は、こう宣言した。謝企華・中国鋼鉄工業協会会長が「世界各国、特に日本の先進的技術を学ぶことが重要。相互交流、相互学習を図り、理解を深めたい」と語り、環境協力が始まった。

交流会を重ね、日本の経済産業省の支援を受けて日本の環境技術の導入が進展。新日鉄エンジニアリングやJFEエンジニアリングは高炉炉頂圧発電など有効な設備システムを提案し、採用が具体化している。

環境技術では、非鉄業も活発な動きを見せる。DOWAホールディングスは、住友商事やパナソニックなどと家電リサイクル工場を展開。13年3月には江蘇省にめっき工場を完成させる予定。

11年にはレアアース問題が浮上したが、世界生産の90%以上を占める中国は、日本にとって重要な供給ソースであり、切り離せない関係。日本が持つリサイクル技術を提供し、互いに利のある術で問題解消に近づく。

非鉄リサイクル活発化

資源としての金属スクラップが、環境保護の観点からも注目される。年間需要約1億トンの鉄スクラップは、日本からも年間に約100万トン単位で輸出。非鉄スクラップは日本からの輸出だけでなく、リサイクル企業が中国に加工拠点を設けて分別処理し、高付加価値の再生資源として循環させる。徐々に蓄積される中国国内のスクラップも今後は活用の場が広がる。

中国の経済成長は8%前後の安定的な速度へと移るが、内陸部の開発は緒についたばかり。素材の供給から資源の有効活用まで、日本が培ってきた技術を世界最大市場の隣国で生かすのは、これからだ。

（上海支局＝植木美知也）

私たちは、メタルリサイクルを通して
皆様と社会に貢献出来るよう努力していきます。

株式会社メタルドゥ www.raremetal.co.jp/
本社 大阪市西区京町堀3丁目5番6号 TEL.06-6448-5151（代表）
1st物流センター 大阪市此花区常吉1丁目1番76号 TEL.06-6462-5851
2nd物流センター 神戸市中央区港島南町3丁目5番4 TEL.078-306-1108
東京支店 東京都江東区新木場3丁目4番12号 TEL.03-3522-5658

祝 産業新聞社 アジア総局 上海支局 開設